

## 明野中学校区の学校の在り方について

平成 30 年 9 月  
筑西市学校の在り方検討委員会  
明野地区協議会

保護者や先生・自治会長さんの代表者などで構成された『筑西市学校の在り方検討委員会』では、子どもたちのより良い教育環境を整えるためにはどうすべきか協議を進めています。

平成 27 年に決定した『筑西市小中一貫教育及び学校の適正規模・適正配置の基本方針』に基づき、協議・検討を続け、平成 28 年 2 月には【小中一貫教育モデル校は明野中学校とする】こと、平成 29 年 2 月には【さらに望ましい教育環境が見込める義務教育学校（施設一体型）の設置について検討を開始すること】を答申しています。

## 小中一貫教育とは

- 「義務教育の 9 年間でこんな子どもに育てたい」という子ども像を、小中学校が共有し、系統性・連続性の高い教育を行う。
- 中学 1 年生になったときに新しい環境での学習や生活に不応をおこす、いわゆる「中一ギャップ」の緩和など、さまざまなメリットが期待できる。

### 基本方針

- ・小中一貫教育を積極的に推進し、全ての中学校区で施設一体型義務教育学校の設置を目指す。
- ・当面の施設形態は、施設分離型とする。
- ・学校関係者、保護者や地域住民と調整・協議等をしながら推進していく。
- ・モデル校（地区）を選定し、推進していく。

⇒ **明野中学校区がモデル地区です。**

## 義務教育学校とは

現在の小中一貫教育を一步進めたものが、義務教育学校である。新しい種類の学校であり、校長先生も 1 人となる。義務教育学校は、修業年限が 9 年となり、中学 1 年生を 7 年生、中学 2 年生を 8 年生、中学 3 年生を 9 年生と呼ぶ。

### 【主なメリット】

- ☆早期化する子どもたちの身体的・精神的発達に対応できる。
- ☆中学校の教員が小学校の授業をすることが可能になり、算数などつまづきやすい教科を専門の先生が教えることで、理解しやすい環境が生まれる。

## ◆◆ これまでの経緯 ◆◆

H27.	7	市長・教育長・教育委員による総合教育会議を開催し、筑西市小中一貫教育及び学校の適正規模・適正配置の基本方針を決定する。
H27.	10	『筑西市学校の在り方検討委員会』設立
H28.	1	中学校区別学校教育懇談会開催。明野地区での関心が高かった。
H28.	2	筑西市学校の在り方検討委員会及び総合教育会議において、明野中学校区を小中一貫教育モデル地区に決定
H28.	7	市内小学校 20 校に在籍する全学年の児童保護者アンケート実施
H28.	10	明野中学校区で小中一貫教育スタート
H30.	2	「明野中学校区の学校の在り方について」説明会開催
H30.	5	筑西市学校の在り方検討委員会において、明野中学校区について具体的な検討を進める旨の決定

## 適正規模とは

○児童生徒の教育環境をより良くするため、学校の適正規模を定め、適正配置について検討している。

### 【小規模校のメリット】

- ☆児童生徒の一人ひとりに目が届きやすく、きめ細やかな指導が行いやすい。
- ☆学校行事等において、児童生徒一人ひとりの個別の活動機会を設定しやすい。
- ☆児童生徒相互の人間関係が深まりやすい。

### 【小規模校のデメリット】

- ★切磋琢磨する機会が少なくなりやすい。
- ★集団の中で多様な考え方に触れる機会が少なくなりやすい。
- ★友人関係の固定化や序列化を招くおそれがある。
- ★人間関係が壊れると修復が難しい。人間関係上の問題が発生した場合には、学級編成替えなどによる問題の解消が難しいことがある。
- ★集団の中で培われる力（我慢する力、集団の中で生きる力、集団のルール等）が育ちにくい。
- ★緊急対応時や学級経営に問題が生じた場合等、他の教員による支援体制を構築することが難

### 基本方針

**小学校は、クラス替えが可能である各学年 2 学級以上となる 12 学級以上**  
**中学校は、クラス替えが可能で全ての教科の担任が配置できる 9 学級以上**

- ・児童生徒にとって望ましい教育環境の整備を第一に考え、学校関係者、保護者や地域住民と合意形成を図りながら推進していく。
- ・複式学級など、教育上著しく望ましくない環境となる場合には、早急な対応を行う。

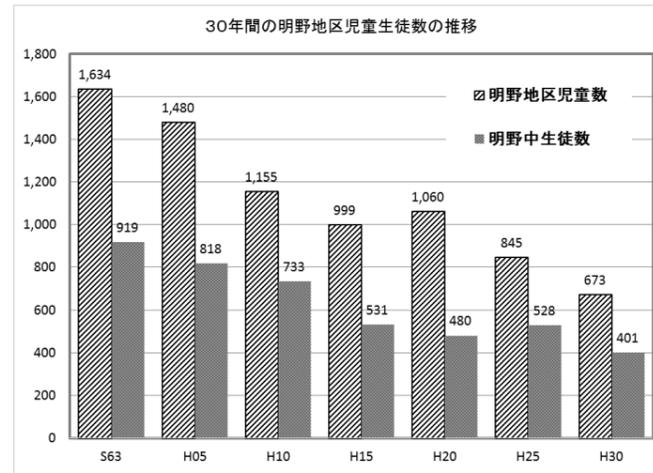
# 明野中学校区は今どうなっているのか？

明野中学校区では、小中一貫教育のモデル校としてさまざまな取り組みを行いながら、小中一貫教育の「施設一体型の義務教育学校」の開設が検討されています。2月20・21・22日には、小学校・幼稚園・保育園保護者を対象とした説明会も開催されており、その時のアンケートでは、約80%の方が「義務教育学校の設立」や「小学校同士の統合」を行うなどして、教育環境の改善が必要とする回答をしています。この状況を鑑みて、明野中学校区の将来をもっと真剣に考える必要があります。

## どうして今？

現在、5小学校すべて【小規模校】になっています。今はまだ小規模校の良さを生かした学校がありますが、今後の児童数の減少でさまざまな問題がでてくる可能性があります。特に来年度には鳥羽小学校で複式学級を編成しなければならない可能性が高くなっています。

下表の児童数見込みから急激な児童数減少がわかると思います。問題を先送りしては、教育環境の悪化を招きかねません。



	平成30年度							平成36年度見込み							増減
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	
大村小	42	34	34	46	37	53	246	49	43	48	40	40	31	251	5
村田小	22	20	17	25	25	31	140	15	13	16	15	15	7	81	△ 59
鳥羽小	10	7	13	16	12	17	75	8	11	19	7	18	14	77	2
上野小	11	21	13	23	17	19	104	19	16	16	17	13	19	100	△ 4
長譚小	23	17	16	15	16	21	108	8	8	23	19	17	12	87	△ 21
計	108	99	93	125	107	141	673	99	91	122	98	103	83	596	△ 77

(明野地区小学校児童数)

## 複式学級とは

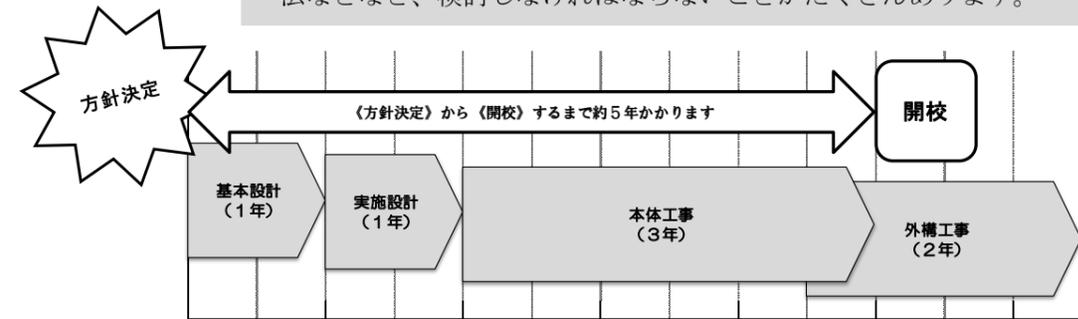
複式学級とは、2つ以上の学年で構成される学級のこと。異なる学年が同じ教室で授業を受けるため、一方の学年が先生から直接指導を受けている間、もう一方の学年は課題学習することになる。

### 【複式学級の特徴】

- 児童は先生の直接的な指導を受ける時間が不足し、自学自習の特別な訓練が必要となる。
- 行動が消極的になることや、学習意欲が低調になる傾向がみられることがある。
- 学級の中で上学年や下学年を経験することにより、上学年の児童はリーダーとしての、下学年の児童はフォロワーとしての自覚を持つようになる。一方で、上学年の児童の負担が過重になることや、下学年の児童が上学年の児童に対して依頼心を持ちやすくなり、リーダーシップを発揮する機会が減少することがある。
- 先生は間接指導充実のための指導計画の作成や、指導方法の研究と経験が必要となる。

## いつできるの？

方針を決定してから、5年くらいかかると見込まれます。その5年の間に、一体型校舎の整備だけでなく、学校名・カリキュラム・通学路や通学方法などなど、検討しなければならないことがたくさんあります。



## 近隣市町村の事例は？

近隣市町村・県内市町村の主な事例は下表のとおりです。このほかにも開設された義務教育学校はありますし、開校に向けて課題等を調整しているところも多くなってきています。

市町村	学校名	開校(予定)日
桜川市	桃山学園	平成30年4月
つくば市	春日学園義務教育学校	平成28年4月
	秀峰筑波義務教育学校	平成30年4月
	学園の森義務教育学校	平成30年4月
	みどりの学園義務教育学校	平成30年4月
水戸市	国田義務教育学校	平成28年4月
笠間市	みなみ学園義務教育学校	平成29年4月
土浦市	新治学園義務教育学校	平成30年4月
小美玉市	玉里中との義務教育学校(名称未定)	平成33年4月予定
小山市	絹義務教育学校	平成29年4月

これまで筑西市学校の在り方検討委員会で、明野中学校区の学校の在り方などについて協議・検討してまいりました。まずは「小中一貫教育とは」、「適正規模とは」、そして明野中学校区の現状について知っていただきたいと思います。

次代を担う子どもたちの可能性を伸ばしていくためには、どのような教育環境が良いのでしょうか。児童数・生徒数はどんどん減少していきます。それに伴いさまざまな問題も生じてきています。学校の在り方も変わっていく必要があるのではないのでしょうか。

子どもたちのより良い教育環境について、保護者・地域の皆様が一緒に考えていただきますようお願いいたします。